



手をつなごう、子どもたちのこころと

ACC News Letter

危機の子どもたち・希望

August 2010



ACC ニュースレター第 25 号

ACC News Letter Vol.25

- ・「ともだち未来便 2009」～カンボジア 配布報告
- ・ ACC スタディ・ツアー ～セルビア、ボスニア・ヘルツェゴヴィナ
- ・「風の船」プログラム報告～国際理解教育（平和学習）・大田区立大森第六中学校
- ・ほうこく・いろいろ



カンボジアの初等教育を支える女性たちと出会いました ～「ともだち未来便 2009」配布報告～

初めてカンボジアの地を訪れたのは 20 世紀最後の年、それから 10 年、首都プノンペン¹の表面的な復興には、目を見張るものがあります。洒落た店舗が立ち並ぶデパート、日用品から食料品まで何でも揃うスーパーマーケット。公園整備も進み、夕方になると三々五々人が集まり、ダンスやバトミントンなどのレクリエーションを、心から楽しんでいる平和な光景が繰り広げられます。しかしその復興の恩恵に与っているのは、都市部で生活するごく一部の限られた人々にしか過ぎません。

2010 年 3 月 1 日「ともだち未来便」配布のために訪れたバンテアイミンチェイ州²プントーチ村には、ミネラルウォーターやオートバイ用のオイルなど、僅かな商品しか置かれていない小さな店舗が 1 軒あるだけです。カンボジアでは、都市部と地方の経済的、社会的格差がますます拡大している印象を強くしました。

ACC では、2 年前から児童図書³の支援を行っていますが、プノンペンの書店に並ぶ出版物は、中国製の安い印刷用紙が普及し、年を追うごとに急増しています。児童向けの図書も、種類・量が豊富になり、いったいどの本がカンボジアの子どもたちの「未来」に繋がるか・・・迷ってしまいます。幸いにも、バットバン州とバンテアイミンチェイ州で初等教育に携わり（現在は教壇を離れ、教育委員会で中央政府と地方との調整員として活躍）、ちょうど会議のためにプノンペンにいられていたティ・ワントゥル女史が、高学年向けの「読み物」、また地雷などで怪我をした子どもに対するいじめをテーマにした絵本など、一冊ずつ内容を確認しながら選んで下さいました。

COF 代表のメアス・ブンラー氏が選んだ一冊の本。それはフランス人ジャーナリストが、クメール・ルージュ（ポル・ポト政権）についてさまざまな方向から検証したりレポートで、最近クメール語に翻訳され出版されたものでした。先生たちには是非読

んでもらいたいというブンラー氏の思いの中に、あの内戦で負った彼自身の心の傷が、教育支援活動を通じて徐々に癒され、あの時代を冷静に振り返る心のゆとりができたように思われました。と同時に、カンボジアの負の歴史を風化させることなく、次世代に伝えていきたい・・・という強い思いも感じられました。



（前列中央）ブンラー氏、ワントゥル女史

カンボジアの辺境地域の初等教育を熟知しているティ・ワントゥル女史には、これからもできれば ACC の児童図書支援のアドバイザーとしてご協力を頂きたい旨をお願い致しました。

40 度を超す猛暑の中、プレイトゥルテン小学校の 260 名の児童、はるばるトラクター二台に分乗して同校にやってきたポイターセク小学校の約 200 名の児童、そして大勢のコミュニティの長老方が、3 名の ACC メンバー、4 名の COF スタッフを拍手で迎え、歓迎式典が始まりました。

子どもたちの元気な歌声で国歌が斉唱され、国旗掲揚が行われると、緊張感が高まります。

その緊張感の中、日本文化の紹介を兼ねた「鶴亀」という日本舞踊が披露されると、初めて目にする着物や舞扇、異文化の踊りに子どもたちは興味津々の様子でした。



州教育省 NO.3 イェン・ソック・リー女史が挨拶に立たれ、まず最初に ACC と、助成金を通じてカンボジアの初等教育の充実に尽力された「ひろしま・祈りの石国際教育交流財団」への感謝の気持ちを述べられました。話の途中で子どもたちに呼びかけたり、子どもたちがそれに応えたりする場面があり、リー女史が一所懸命子どもたちの気持ちを高めようとしていることが感じられました。

いよいよ、手作りの袋を子どもたち一人ひとりに手渡すときがきました。先頭にいた低学年の子どもが先生に促されて前にきましたが、はにかんだような表情でなかなか手が出てきません。こんなに緊張しなくてもいいのに・・・でもこの子が、今日という日、未来便を貰うということに、小さな胸を期待でどんなに膨らませていたのか・・・その思いに胸が熱くなり、袋を受け取った後の嬉しそうな笑顔に、猛暑も吹き飛びました。

来賓の長老方、未就学児童にも「未来便」がプレゼントされ、笑顔の輪はさらに広がっていきます。過酷な内戦を体験し、今尚その影響を受け物質的豊かさとは対極の生活を送っている村の長老たちにとっても、「日本からの友情のプレゼント」は嬉しいものとなりました。



(ともだち未来便を配るリー女史)

袋を受け取った子どもたちは、お互いに袋の中身を見せ合い、「おまけグッズ」のミニカーで一緒に遊んだり、自分の袋の中に入っていた髪飾りを、傍にいる女の子につけてあげている男の子の姿も

ありました。自分だけに贈られたプレゼント、絵手紙もまた始めて受け取った手紙です。日本の子どもたちが心をこめて描いた絵や文字に笑顔がこぼれます。

高学年の子どもたちとのワークショップは、急遽青空の下で行われることになりました。



普段絵を描くことのない子どもたちは、最初は戸惑っていたようでしたが、大阪聖母学院小学校の子どもたちの描いてくれた寄せ書きに囲まれ、その絵にインスピレーションを受けながら、また ACC メンバー、COF スタッフ、そして子どもの扱いが抜群に巧いリー女史が子どもたちの輪の中で働きかけをしていくと、絵を描く子ども達の数は一だんだん増え、最終的には用意していた5枚の模造紙に、カンボジアの子どもたちの作品が完成しました。「カンボジアの小学校の教育プログラムの中に、こうした「皆で一緒に何かを創る」というものはなく、今回の体験は子どもたちにとって、教育的にも意味のあるものだったと COF 代表のブンラー氏は、このワークショップを高く評価して下さいました。

「ともだち未来便」にご協力いただきましたすべての皆さまに心より御礼を申し上げます。そして今回、側面からこの活動を支えてくださったワントゥル女史とリー女史、カンボジアの初等教育を支える二人の女性に感謝の気持ちを捧げたいと思います。



2010年セルビア スタディ・ツアー報告

2010年2月21日から3月4日までの12日間、井上麻由美、内田英子、高橋真人、森泉尚子の四名でセルビア共和国とボスニア・ヘルツェゴビナを訪れました。現

地で行ったプログラムについて時系列でご報告いたします。現地で行ったプログラムへの参加人数は史上最多の約400名でした。

2月21日

成田発、同日ベオグラード着。

2月22日

ベオグラード市内で姉妹団体であるZDRAVO DA STE (以下、ZDS) の事務所で今後の活動についての話し合いを行いました。

2月23日

セルビア共和国の首都ベオグラードにて山崎佳代子氏の司会のもと詩人のヴォイスラヴ・カラノヴィッチ氏をゲストに迎えベオグラード大学文学部日本語学科の学生たちと共に『詩のワークショップ』を行いました。

2月24日

スメデレボ市にあるラーリャ小学校とヨーロッパ最大の難民センターであるオーラ難民センターを訪問し、難民センターに住む子どもたちと一緒にワークショップ『言葉と言葉、人と人が出会う時』を行いました。ワークショップ後、難民センターに住むサーシャ・テレブスッチ氏と青年たちから難民センターにおける生活の実情について聞き取りを行いました。

2月25日

ブルニャチカ・バニャ市へマイクロ・バスで移動

2月26日

ブルニャチカ・バニャ近郊ノヴォ・セロ小学校を訪問し、ワークショップ『泉』を

行いました。ZDS 事務所ではクロアチアから難民としてセルビアに逃れてきたスターナさんによる機織りの実演と指導をコソボ難民の女性たちを対象として行いました。また、地元の市民会館で地域住民も参加し、ワークショップ『糸と手』、『詩のワークショップ』を行いました。

2月27日

ボスニア・ヘルツェゴビナのルド市へバスで移動。

2月28日

ルド文化センターにてルドの中学生へ島根県邑智中学校の学校生活と生徒の「わたしの一日」を描いた作品を届けました。また、日本の遊び（だるまさんが転んだ、折り紙）を紹介した後、ワークショップ『樹』を行いました。

3月1日

ノヴォ・ゴラジュデ市小学校を訪問し小学生たちによる民族舞踊を鑑賞後、邑智中学校の紹介をしました。

3月2日

バスでベオグラードへ移動。

3月3日

ベオグラード市内 ZDS 事務所にて反省会

3月4日 帰国



スタディ・ツアーに参加して

セルビアのラーリャ小学校では、日本の邑智中学校の説明と挨拶をかわしただけで私には5分ほどの出来事のように感じられました。今は子供達の熱烈な歓迎や、元気さに圧倒されたことしか覚えていません。



私は今回の旅の途中、ワークショップの意味や活動の意味、効果ばかり考えていました。小学校の先生に話を聞くと、子供達は、日本人が来るのをとても楽しみにしていたそうです。私たちの為に、たくさんのお菓子やパンを用意してくれました。子供達が自分で親に頼んで作ってもらったそうです。中には自分の家で飼っている豚を潰そうか？と言ってくれた子もいたそうです。また、食べ物だけでなくセルビア語の紹介や手と手を結んだような歓迎の絵も描いて教室の入り口貼っていました。私は、たかが5～10分しか居ない私達の為にこれほど準備をしてくれたことに驚きました。私たちが来るから準備するという事が、日常とは少し違って、彼らにとって楽しみになっていたのかもしれない。

ボスニアでお世話になったブラゴエさんの「日本人が来ることは、半年分の授業よりも大切」という言葉に気付かされました。私は日本の子供達からのメッセージや贈り物もすべて手段だと今は

感じています。それらの手段を通して、現地の人々と実際に交流することが本当の目的で、何より大切なことだと感じました。私たち日本人である必要もありません。誰かが自分たちに会いに来た、関心をもってくれているという感覚をお互いに共有することがこの活動の最大の目的ではないだろうか、と思います。何分、何時間一緒に活動したかではなく、行く＝会うということが大切だと感じられた事が、今回の旅で一番印象的でした。

バニャのZDSの事務所でお婆さん達と話をしていた時、一人のお婆さんが「日本人の友達 cameたら、他の色々な問題を忘れてしまう。それは生きる力を与えます。」と言いました。その言葉も、私にとってとても印象的です。また、別のお婆さんが「いつも日本人の友達に会うと、次の機会を想像出来ます。」とっていました。子供やお婆さん達は次を期待し、待っています。そして、それは今までACCの人々が続けて来たからこそ、待ってくれているのだと思います。



(ルドの文化センターにて 後列右 ブラゴエ先生)

私は、今回の旅でワークショップや交流の継続が大切だと思いました。実際に続けた結果どうなったかを知る事は難しいですが、続ける事で薄い何か剥がれていくような、不思議な温かさが生まれると信じて続けるのだと思います。

(井上 麻由美)



「風の船」プログラム ～大田区立大森第六中学校における平和学習～

7月13日(火)大田区立大森第六中学校にて、ACCの活動地域の一つである「カンボジア」をテーマとした平和学習を行ってまいりました。風の船恒例のワークショップでは、“カンボジアの子どもたちへしおりを送ろう!”と題し、友だち未来便の配布先である学校の子どもたちへ贈る“しおり”を作成しました。授業前半の「お話」では、カンボジアにおけるポル・ポト政権時代の悲惨な過去や、今なお負の遺産として同国内で問題となっている地雷について、用意した配布資料とともに簡単に説明をしました。その後、カンボジアが国連の“世界の最貧国50カ国”の1つにリストアップされていることに触れ、人口の1/3以上が貧困状態にさらされているカンボジアの現状について、ACCメンバーが実際に現地を訪問した際の写真を用いて説明をしました。ACCが主な活動対象地域としている、バットアンバン、バンテアイミンチェイ州は、カンボジアの中でも地雷埋設が多かった地域であり、現地の学校建設にも影響を及ぼしています。ACCでは、そのような状況下で生活する子どもたちの教育環境の充実を目指し、教科書をはじめとする物資支援を行っております。そこで、来年訪問する学校へ教科書と一緒に贈るしおりを、大森第六中学校第一学年の生徒の皆さんに作って頂きました。1辺15cm程の穴の空いた色画用紙に、カンボジアの子どもたちが喜ぶような絵や文字を自由に描いてもらいました。カンボジアと日本の国旗を並べて描く子、オリジナルのキャラクターを描く子、部活の様子を描く子、皆の心のこもった121枚のしおりが出来上がりました。一人の女の子に、「FRIENDと書いたら、渡すとき訳してくれる?」と聞かれました。「もちろん!」と答えながら、彼らがカンボジアの子どもたちのことを“友だち”と表現してくれたことを嬉しく思いました。顔も名前も知らない遠く離れたカンボジアと日本の子ども

もたちが、このしおりを通してお互いに関心を寄せ合い、つながることができるのではと思います。



今回大森第六中学校での授業は初めてであり、かつ50分という短い時間ではありましたが、皆様のご協力のおかげで、楽しく充実した授業を行うことができました。担当の先生からは、さまざまな活動の話聞く機会があっても、生徒がこのような実際に活動に関われる機会はなかなか無いのでよい経験になったとのこと言葉を頂きました。作成していただいたしおりは、責任を持って来年カンボジアに届けてまいります。



ご協力頂いた大森六中の皆さまに、心より御礼申し上げます。



ほうこく・いろいろ

外部バザーへの参加

5月23日(日)カトリック碑文谷教会で開催されたバザーに今年も参加、「おばあさんの手」の作品やカンボジア製の小物類と共に、活動地域で生活している人々の様子を紹介しました。当日はあいにくの雨模様でしたが、来場者の方が、伝統の機織りをするおばあさんの写真や、カンボジアの子どもたちの写真に目をとめて下さいました。

7月11日(日)カトリック田園調布教会のサマーセールに出店し、障害者支援や、アフリカ難民支援など、さまざまな目的で活動している他の福祉団体との交流も含めて、有意義な時間を共有することができました。

きたる8月27日(金)には、慶應義塾大学三田第一校舎で開催される「婦人三田会バザー」に参加する予定です。開催時間は11時から14時30分までです。このバザーの売り上げの一部は、婦人三田会を通じて、慶應義塾大学で学ぶ留学生の奨学金としても活用されます。盛夏の折ですが、皆さまのご来場をお待ち申し上げます。

ピアノ支援報告

皆さまにご協力の呼びかけをしておりました、カンボジアのオー村小学校「音楽教室」へのピアノ支援、お蔭さまで、6月下旬までに、ヤマハ製ピアノ9台、スズキ製メロディオン4台、ゼンオン製ピアノ1台が事務所に寄せられ、「吹き口」募金への寄金などでそれぞれの製品に合った新しい吹き口を購入し、それも付けて「音楽教室」を主宰されている漆原隆一氏のもとにお送り致しました。

今回ACCより送られた14台の「鍵盤ハーモニカ」によって、お送り45名の参加児童に対し「一人一台」が実現できる運びとなりました。ご協力を頂きました皆様に、心より御礼を申し上げます。

カンボジアでお米支援

2010年度の第一弾の「米支援」を、現地パートナーNGOのCOFを通じて、5月10日に行いました。Banteaymeanchey州Chomnouvong村で、貧困のために米を買うことが困難な家族や、内戦で身内を失ってしまった独居老人などに、お米(50kg/子ども5人前後がいる家族の約1ヶ月分の米)1袋ずつが配布されました。辺境の最貧地区の子どもたちの栄養状況改善などを目的とする「米支援」は今後もバンバン州などで引き続き実施致します。

2009年度「ひろしま・祈りの石国際教育交流財団」から頂戴した助成金の一部が、このプロジェクトに活用されますが、このカンボジアの人々の命を守る「米支援」プロジェクトに、皆さまのご理解とご支援をお寄せ頂けましたら幸いと存じます。

「ともだち未来便 2010」がスタート

教育環境に恵まれていないカンボジア奥地の小学校に、日本からの「友情」を届ける「ともだち未来便」が、本年度もスタートします。現地での配布は来年の3月の予定です。今年も昨年に引き続き「ひろしま・祈りの石国際教育交流財団」の助成金を受け、パートナーNGOであるCOFの協力により、教科書、児童図書等の支援を、時期を早めて実施致します。

この活動の詳細につきましては、同封のご案内をご参照ください。皆さまのご参加を心よりお待ちしております。





ACC 初夏のチャリティフェアご報告

6月13日(日)、恒例の「ACC 初夏のチャリティフェア」が開催されました。今回は初めて中目黒に場所を移して、外部のスペースを使っただけのフェアとなりました。開催場所が東急東横線の中目黒駅から徒歩1分という好位置にあったことも幸いし、多くの来場者にお越しいただきました。イベントにはセルビアの手芸品、カンボジアの民族製品、日用雑貨、アクセサリーなどが多数展示されました。また喫茶コーナーではケーキとお茶で一休みしていただきました。梅雨のさなかでお天気も心配されましたが幸い好天にも恵まれ、立ち寄られた方から「会場がわかりやすい場所でありやすかった」という感想もいただきました。

いつもながら、協力者を含め、寄付いただきました皆さまへ深く感謝申し上げます。



今後ともこうしたチャリティイベントを通して、ACCの活動を紹介し、ご理解を深めていただきたいと希望しております。



ご協力をお待ち申し上げます

会員として、継続的な支援ネットワークにご協力下さい。

個人会員	年会費	10,000
学生会員	年会費	2,000
子ども会員	年会費	1,000
法人会員	年会費	30,000 (円)

送り先

● **三菱東京UFJ銀行**

普通口座番号
口座名

恵比寿支店

1610158

**特定非営利活動法人
危機の子どもたち・希望**

● **郵便振替**

口座番号
口座名

00180-0-69004

危機の子どもたち・希望

編集後記

予報に相反して、猛暑の今夏です。世界の気候もあちらこちらから異常な暑さが伝えられています。しかし、夏は夏らしく、冬は冬らしく、そして子どもは子どもらしく過ごせる、そんな地球であること、普通なことが普通にできること、そのようなことを願いつつニュースレター25号をお届けいたします。(内田 英子)

特定非営利活動法人
ACC 危機の子どもたち・希望
〒152-0031
東京都目黒区中根 2-12-1
K&K ビル 5F
Tel/Fax 03-6459-5971
E-mail forhope@tkk.att.ne.jp
ホームページ <http://www.acc-japan.jp/>